

令和7年度 在宅医療・介護連携推進事業講演会 報告

■目的

この講演会は、地域における包括的かつ継続的な在宅医療の提供を目指すと共に、市民一人ひとりが「住み慣れた地域で安心して暮らせるためにはどうするか」を考え、ACP（人生会議）の重要性と共に人とのつながり、社会参加の大切さ等を広く市民に啓発することを目的として実施した。

■開催日時

令和7年6月7日（土）14:30～16:30

■会場

島田市民総合施設プラザおおるりホール

■テーマ

「地域で安心して暮らせるために」

演題：人と人とをつなぐ新しい医療のかたち～在宅医療と社会的処方～

■講師

一般社団法人プラスケア 代表理事

川崎市立井田病院 腫瘍内科 部長 西 智弘 氏

■来場者数

278人（市内外）

市民、医療関係者、介護サービス事業者・社会福祉協議会・市関係者ほか

■内容

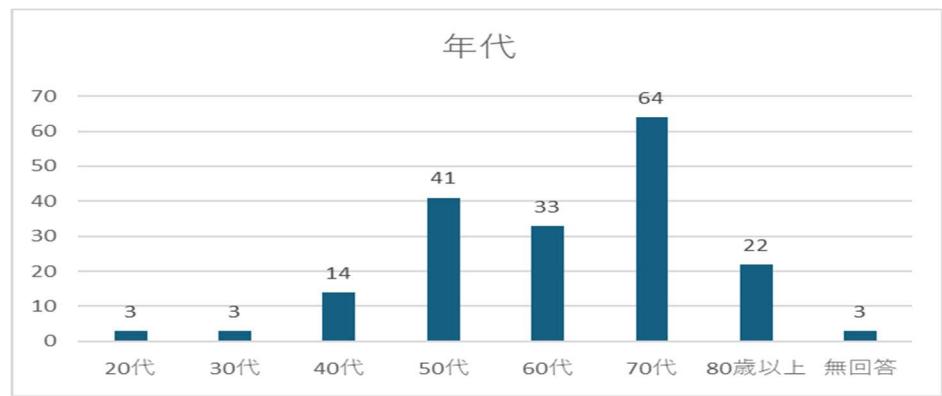
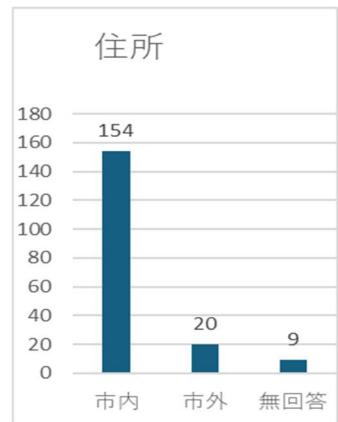
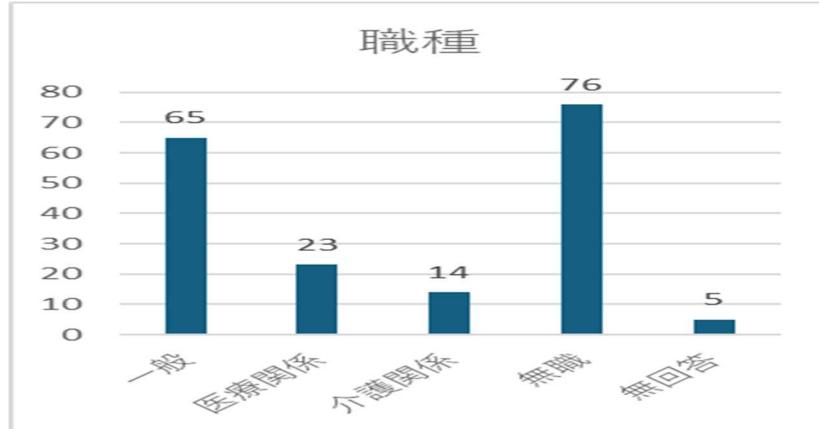
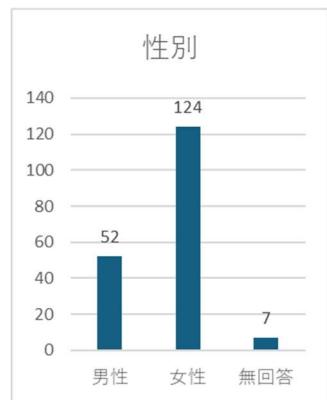
孤独・孤立がなぜ問題になるのか、世界最先端の緩和ケアとは、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）とは何か、孤立・孤独への処方箋などの内容について、説明があった。

社会的処方とは、薬で人を健康にするのではなく、地域とのつながりを処方することで人を元気にする仕組みのこと。

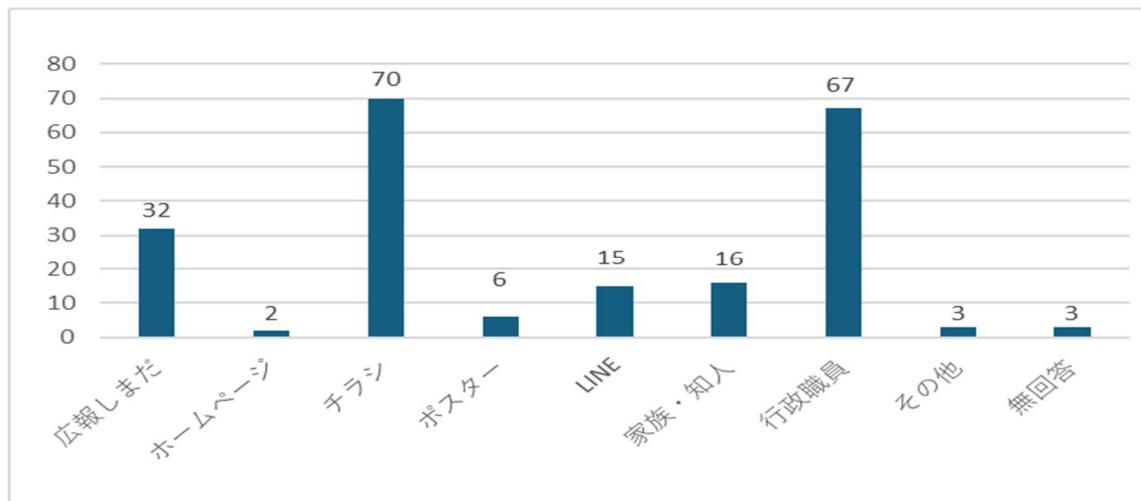
■アンケート調査結果

アンケート回収件数 183 人

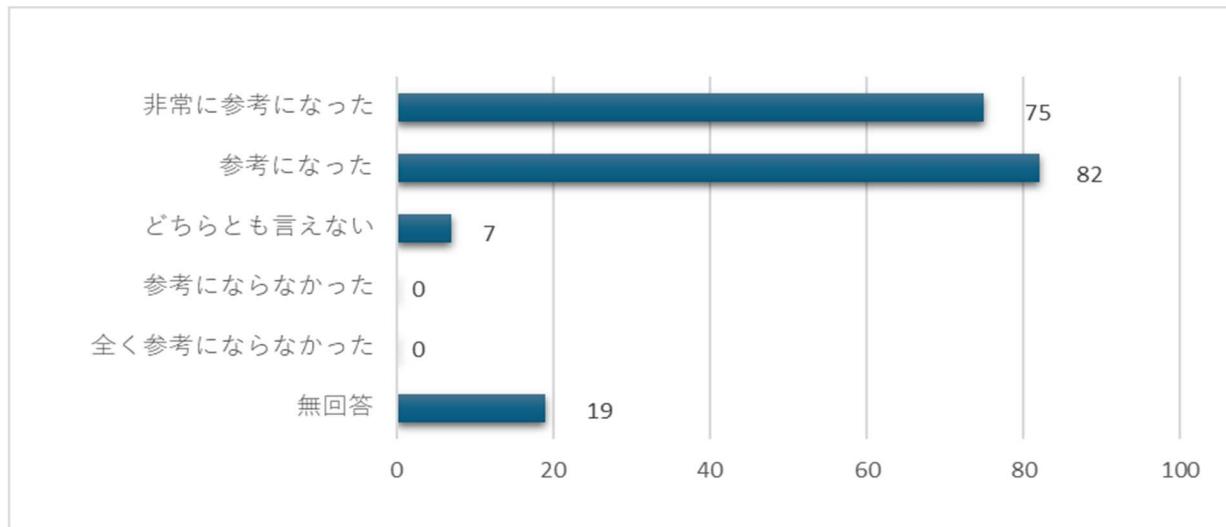
問1 該当項目結果



問2 本日の講演会を何でお知りになりましたか。(複数回答)



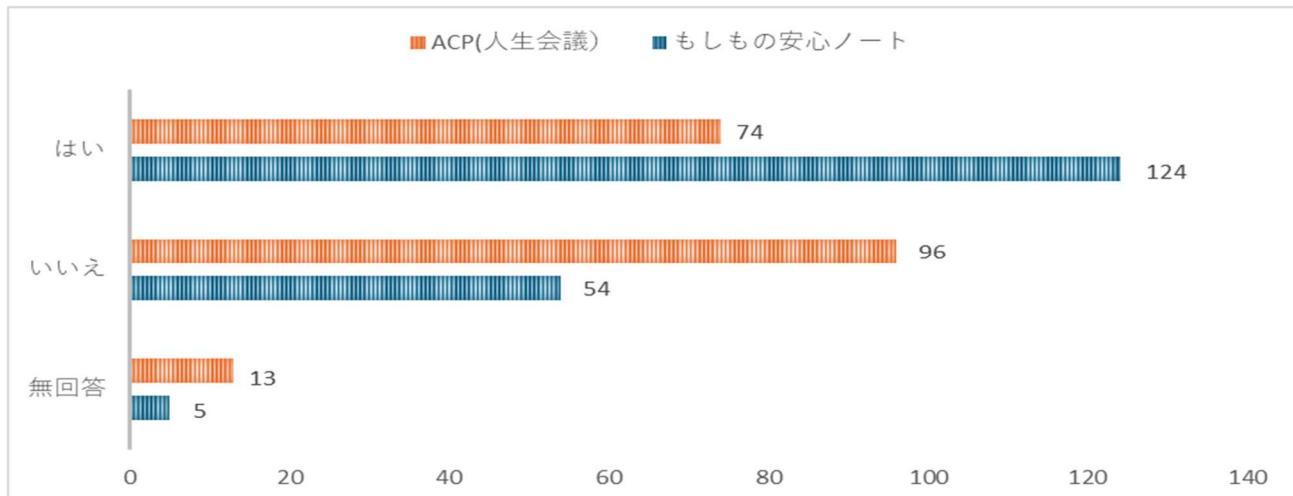
問3 講演について感想を伺います。



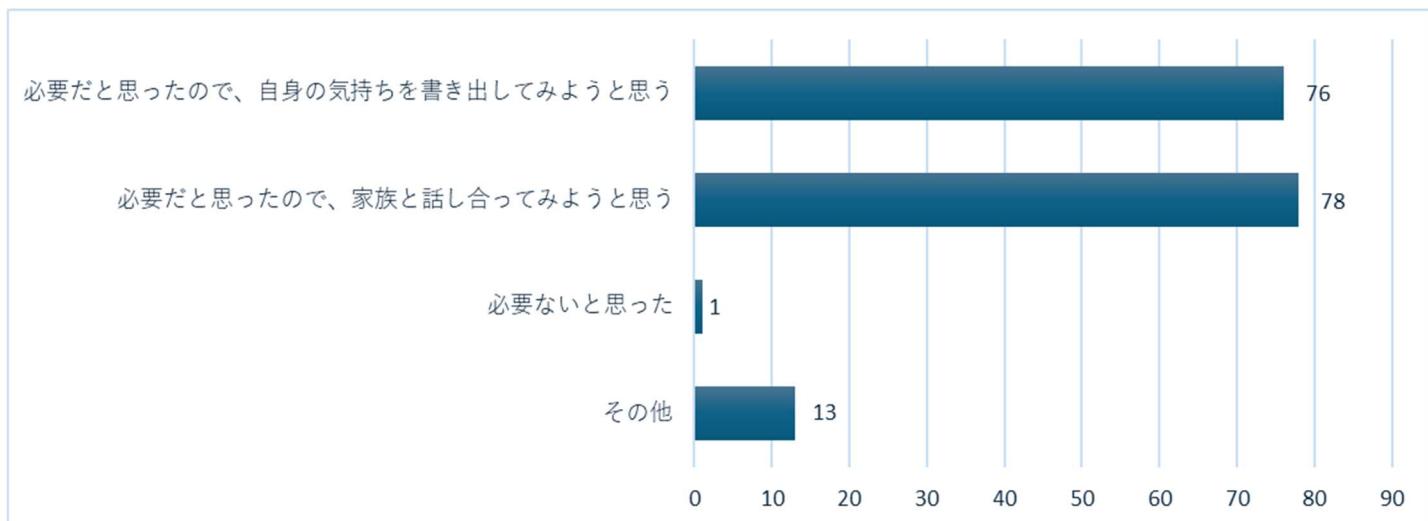
その理由について

- ・市民が元気に安心して暮らせるアイディアを聞けたこと
- ・孤独について考え方方が変わった
- ・繋がる社会の大切さを学ぶことができました。
- ・信頼関係の構築を行い、人ととの関りを大事にしていきたいと思う。
- ・今安心して孤独でいられる理由が、良くわかった。近所、周囲、身内との関係を良く保っている。(出かけることはあまり望まない)
- ・望める緩和ケアを知った。社会的処方という対処を理解できた。
- ・緩和ケアの認識が変わりました。また、人と地域とのつながりの大切さを改めて考えさせられました。
- ・孤立せずに、社会とつながりをもつことが元気に生きるコツ！
- ・コミュニティ（人とのかかわり）のヒントが有った。
- ・医療や福祉でもない地域とのつながりが、今後も大切だとわかった。
- ・在宅医療について、これまで主体的に考える機会が少なかった。医療制度全体について考える機会になりました。
- ・自分に何ができるのかを考えました。
- ・緩和ケアの考え方や社会的処方について知ることができた。制度を作るのではなく文化をつくることと言う言葉が印象的でした。

問4 「ACP（人生会議）」「もしもの安心ノート」を知っていましたか。



問5 本日の講演会を聞いて「ACP（人生会議）」、「もしもの安心ノート」を活用しようと思いましたか。



その他と回答された理由

- ・まだいいと言われています。まだ、決められない。
- ・必要だと思うが、なかなか時間がない
- ・「もしもの安心ノート」的なものはすでに作っていますが、細かな話し合いはまだしていないで考えています。
- ・今は親の介護でいっぱいで、自分の事はあまり考えられない

問6 ご意見、感想がございましたら、ご自由にお書きください。

- ・保健室とは、人と人を繋ぐ又はその人がホットできる大切な居場所なんだなあとつくづく思いました。おせっかい=会話 共感しました。学校の保健室もそうですね。
- ・社会的処方とても勉強になりました。信じる、繋がる大きなキーワードですね。
- ・重層的緩和ケア、ネットワークの話が島田の町の中でも小さなことからできていくといいな！と思いました。
- ・社会的処方というのは、大切だということが分かりましたが、難しいことでもあるなと思いました。
- ・高齢者の居場所（カフェ）で、今日のお話を伝えたいと思います。居場所に来てくださる方はすでに友達作りをしている方です。そこへ来ない方にどう声かけしていくか、繋がりをもつていくか難しいところです。
- ・人口減少の中で、人との関わりが希薄になっています。自分が元気だと考える事はありませんが、地域づくりは、自分ごととして、とらえる必要があると思いました。
- ・病気がありなしに関わらず孤立せず人との繋がりを大切にしていくことが大事だと思いました。地域で気軽に相談できる場所があるのはとてもよいと思います。
- ・自分が暮らす地域も高齢化が進んでいる。「何かできることはないかな」と考えていましたところ「社会的処方」のような活動をしてみたいと思う。
- ・島田市にも「暮らしの保健室」が街中にできるとありがたいです。

- ・一人でいる時間も楽で良いけれど、適度に友人関係を続けたり、ボランティア活動に参加していきたい。
- ・がん患者でなく、孤独に自ら陥る人がいる。職業として支えられるのは、たまに見守りくらいしかない。どんなに関わってもなかなか人とつながりを持とうとしません。回復も目に見えるようにはなりません。でも、その人が繋がりたい時に繋がれる人であればいいと思えました。
- ・私もがんで手術をしましたけれど、今まで忘れていました。毎日元気で生活していますし、コミュニティなどで体操をして、グランドゴルフをやったりして、元気に動き回っています。
前向きに意識しないで生活する事
- ・孤独を楽しみつつ、社会的繋がり、忘れない様にしたいと改めて思いました。
良い意味でのおせっかいが必要なんですね。昔は、困るおせっかいも多かったかもしれません（今もあるかもしれません）今は無関心、守秘義務や人権重視の世の中でもあるので難しさもあると思います。新しい文化の構築が必要だと再認識しました。
- ・深いお話でした。日本で今、人殺し、だまし、犯罪、自殺等々多すぎます。今日のお話のような世界ができたらもっと平和になるのに、と、思いました。病気ではなくても困っている人を助ける社会、日本になるといいですね。人殺したい、自殺したい、ごまかしてお金を取りたいと思う人達を助けてあげる国になるといいです。
- ・民生児童委員を行っていく中で、問題を抱えている人達が多くいるので本日の社会的処方の意識を高めて対処していきたいと思います。
- ・人間関係を良好に保つ事ができれば孤独とは感じないと思う。今まで自分は幸福なんでと実感した。誰かとつながりたいと思った時は、素直にSOSを出します（ちなみに一人暮らしですが…）
- ・「安心して孤独でいられる社会」が心に残りました。
- ・人のつながり 今より昔がたくさんあったと思います。
- ・横のつながりは大切 地域に居る高齢者を元気にしたい 砂場の例はわかりやすい→後ろを振り向いたら誰もいないのはさみしい
- ・コミュニティの大切さを知りました。声かけ近所を大切に
- ・昭和の頃は地域でのつながりが多くあった。平成、令和となるにつれ地域でのつながりが薄れ、SMS等を通したつながりを求める人が増えているように思う。小生としてはちいきでの繋がりがある方が良いと思います。SMSを否定する訳ではありませんが、医療だけでなく広い世界観で繋がりを求められているし、そうした島田市であって欲しい。
- ・医療的な視点での社会的処方としてのリンクワーカー（コミュニティコネクター）の必要性は需要とのお話は「まちづくり」へもつながる考え方だと思います。「点ではなく網として」とりこぼされない様にする、という考え方は大変参考になりました。
- ・地域との関り（繋がり）の重要性を感じました。
- ・ACPの講演会には毎回参加させて貰っています、大変いい講演会なので楽しみにしています。
- ・暮らしの保健室が興味深かったです。ネットワーク作りの重要性
- ・「社会的処方」という考え方興味を覚え、「目からうろこ」でした。参加して本当に良かったです。企画してくれたことに感謝いたします。 など